

第2学年 国語科学習指導案

日 時
生 徒
授業者

1 単元名 随筆を読み、筆者について迫ろう

学習材名 枕草子・徒然草 (新しい国語2年 東京書籍)

2 単元の見方

- (1) 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表われたものの見方や考え方を理解することができる。 [知識及び技能] (3) イ
- (2) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力] C (1) オ
- (3) 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

「枕草子」「徒然草」から読み取った筆者のものの見方、考え方を生かし、同じ視点を持ち随筆を書く。

関連：[知識及び技能] (3) イ

4 単元について

(1) 教材観

学習指導要領の第2学年の内容には、[知識及び技能] (3) イ「現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表われたものの見方や考え方を知ること」[思考力、判断力、表現力] C (1) オ「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」とある。

本単元は、二つの随筆「枕草子」「徒然草」と、二つの随筆に対する解説から成る。二つの随筆は、どちらも日本を代表する有名な随筆であり平易な内容であるため、生徒にとってなじみやすく、[知識及び技能] (3) イの「現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表われたものの見方や考え方を知ること」について、古典作品に対する抵抗感をもたずに取り組める学習材であると考えられる。そこには、長い年月を経てもなお現代と共通するものがある一方、現代とは異なる生活習慣や宗教観がある。二つの随筆は書かれた時代も筆者の執筆背景も異なり、それぞれの筆者の個性にあふれたものの見方、考え方が表われている。教科書では、「枕草子」からは自然や人事を観察して記した第一段、第百二十五段が紹介されており、日常の中の事象に対する筆者の知的な捉えと感覚的な表現を読み取ることができる。「徒然草」からは、筆者の文章を書く思いを表した序段、法師の失敗から得られる教訓について書かれた第五十二段が紹介されている。貴族たちの華やかな宮廷生活を舞台にして独自の感性を綴った「枕草子」と、出家者として質素な生活を理想に掲げ、人としての好ましい生き方について記された「徒然草」は対照的であり、生徒が筆者それぞれのものの見方、考え方を捉えやすい作品であると考えられる。筆者のものの見方、考え方を捉え、現代に生きる自分や周囲との共通点や相違点について考えることにより[思考力、判断力、表現力] C (1) オ「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」について適する学習材であると考えられる。

(2) 生徒観

〔知識及び技能〕(3)イについて、生徒は1年時に「古典の世界」において、古典には様々な種類の作品があることを学んだ。物語文では初読の際に興味をもって読む生徒が多いが、古典作品は語句の意味や文法表現に抵抗をもつ傾向もあり、読書経験は少ない。また、「枕草子」については、暗唱できる生徒と記憶に残っていない生徒に分かれる状態であり、出身小学校による学習経験の差がある。

〔思考力、判断力、表現力〕C(1)オについて、生徒は1年時に「竹取物語」において、五人の貴公子のエピソードや別れの場面のかぐや姫の思いの読みとりから、人間の弱さや親子の情愛など現代に通じる人間の心のありようについて考える学習を行った。学習のまとめでは、作品に描かれた人物の言動と自分の体験を比較し共通点を挙げながらまとめることができた生徒が多かった。

(3) 指導観

本単元では「読み取った筆者のものの見方、考え方を生かし、同じ視点をもち随筆を書く」という言語活動を通して、自然の美しさや人事への鋭い観察眼、事象に対する知的な捉えなどを読み取りながら、筆者独自の感性や現代にも通じる心情を自分の知識や体験と比較して考えることにより〔思考力、判断力、表現力〕C(1)オの「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする」力を身に付けることをねらいとしている。

本単元では、まず随筆の執筆背景や筆者の生き方をふまえながら教科書作品を読み取り、作品に表われた筆者のものの見方、考え方を手がかりに筆者についてとらえる。次に、筆者の随筆から別の章段を読み、筆者の新たな一面を見つけ出すグループ活動を行う。グループ活動では複数の資料を与え、それぞれのグループが読み取ったことを全体場で交流することで、他面的な人物像に近づけるようにする。

随筆に表われた筆者のものの見方、考え方、そこから読み取れる筆者について積極的に進めていく姿、ワークシートへ記入した読み取りの内容、単元の最後に書く随筆への読み取りの生かし方によって評価する。

(4) 研究主題との関わり

本校の研究主題は「対話的な学びを通じた確かな力の育成～コミュニケーション能力向上の取組を基盤として～」である。全体で学習した筆者について、多面的にとらえていく意義を意識させたうえで、新たな一面を見つけ出すグループ活動を設定し、互いの考えを深め合える対話的な学びに近づけていきたい。読み取りに際して小グループで意見を交流することで、自分が見落としていた部分に気づかせ、より深い読解を促す。グループでの交流の際には、ワークシートに書きながら個人で考える時間を保障し、自分の考えを明確にしてから交流に入るよう留意する。また、意見を発表して終わりにならないよう、グループ間で相手の考えに対して質問や意見を述べ合えるようにしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表われたものの見方や考え方を理解している。((3))	「読むこと」において、随筆の表現をもとにして筆者のものの見方、考え方を捉え、自分や周囲と比較しながら筆者について考えている。(C(1)オ)	進んで古典作品に表われたものの見方や考え方を捉え、学習課題に沿って筆者の視点を自分の随筆に生かしながら書こうとしている。

6 指導と評価の計画（全6時間）

時	学習活動	評価規準・評価方法
1	<p>○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した随筆は学年棟廊下に掲示して互いに読み合えるようにすることを示す。 <p>○教科書の解説を読み、「随筆」とはどんなものなのか、特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「随筆」とは「自分の体験をもとに自由に書き綴るもの」であり、「筆者の個性やものの見方、考え方がよく表われる」ことを押さえさせる。 ・単元の最後に書く随筆についてイメージをもたせるために、現代文で書かれた短い随筆例を示し、自分らしさが出る作品を目指させる。 <p>○教科書の解説を読み、「徒然草」の概要を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼好法師について補足資料を与え、筆者の出家者として理想とした生き方について捉えさせる。 <p>○「徒然草」序段を、語注を参考にしながら読み、筆者の文章を書くときの思いを捉える。</p> <p>○教科書の解説と「仁和寺にある法師」を読み、大体の内容をつかむ。</p>	
2	<p>○「仁和寺にある法師」を読み、「先達はあらまほしきことなり」に表われている筆者の考えを捉えワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法師の念願と、失敗の原因となる行動に着目させ、法師はどうすれば良かったのかを考えさせる。 ・最後の一文から、教訓を引き出した筆者はどんな人物と考えられるか意見を出させる。 <p>○全体で「徒然草」の「神無月のころ」を読み、筆者のものの見方や考え方とそこから読み取れる兼好法師について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神無月のころ」から、筆者が理想としていた生き方を踏まえ、最後の一文の意味を考えさせる。 <p>○「古典コラム」を読み、係り結びについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「竹取物語」を振り返って係り結びが使われている箇所を見つけさせ、係り結びについての理解を確かなものにさせる。 	
3	<p>○グループごとに選択した章段を読み、筆者のものの見方、考え方から読み取れる兼好法師について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10段「家居のつきづきしく」 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 150段「能をつかんとする人」 <p>○グループごとに読んだ資料から捉えた兼好法師について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の事情を考えられる優しい人 ・ 真面目な人・物事に厳しい人 ・ 努力を大切にしている人 など <p>○全体で兼好法師についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 違う章段から得られた意見で共通する点、自分たちと違う意見について全体の場で意見を出し合う。 ・ それぞれの意見を否定することなく、人はいろいろな側面があり多面的にとらえられるものであることを確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能]</p> <p>ワークシート 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここでは、それぞれの資料から筆者の意見や理想とした生き方を踏まえて、内容を正しく捉えて筆者について考えているかを確認する。 </div>
4	<p>○教科書の解説を読み「枕草子」が書かれた時代や概要について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定子と清少納言の関係について補足資料を与え、作品の書かれた背景について押さえさせる。 <p>○「枕草子」第一段を読み、筆者が春夏秋冬で興味あるものとして挙げていることをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを用いて、筆者が良いと捉えている時間帯やものと、書き方の特徴などの項目を示し、簡潔にまとめさせる。 ・ 「灰がちになりてわろし」から分かる筆者の考え方について自分の考えを出させる。 <p>○「枕草子」の「九月ばかり」を読み、大体的内容をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の個性が表われているのはどこかを考えさせる。 <p>○筆者が「をかし」と感じ挙げているものに線を引きながら読み、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後の一文に注目させ、筆者が独自の感性をも楽しんでいることを押さえさせる。 ・ 最後の一文をもとに、筆者をどんな人物と思うか互いに意見を出させる。 <p>○「枕草子」の他の章段を読み、生活の中で見落とされてしまいそうなものへ目を向けている筆者独自の感性を大まかにつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うつくしきもの」の抜粋から、「春はあけぼの」と共通する簡潔な短文である文章の特徴や筆者独自の感性に気づかせる。 	
5 本 時	<p>○グループ各自で選択した章段を読み、筆者のものの見方、考え方から読み取れる人物像を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第104段「見苦しいもの」 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・第145段「胸つぶるるもの」 <p>○グループごとに読んだ資料から捉えた清少納言について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に厳しい人・毒舌 ・気遣いのできる人 ・愛情深い優しい人 など <p>・違う章段から得られた意見で共通する点、自分たちと違う意見について全体の場で意見を出し合う。</p> <p>○全体で清少納言の人物像をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの意見を否定することなく、人物像は多面的にとらえられるものであることを確認する。 <p>○個人で、清少納言の人物像について、自分たちとの共通点や相違点を考えながらまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能] ワークシート 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、それぞれの資料から、筆者のものの見方や考え方について内容を正しく捉えながら筆者について考えているかを確認する。 </div>
6	<p>○「枕草子」「徒然草」から読み取った筆者の視点をもとに、自分の体験を随筆に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の美しさ (今も昔も変わらない美しさ) (昔とは異なる新たな美しさ) ・人間の愚かさ (変わらない人間の心や行動) (今の時代に生かせる教訓) <p>○3～4人グループで互いの随筆を読み合い、交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分はどのような視点で随筆を書いたのかを話してから意見をもらおうよう指示する。 ・不十分な場合は修正案をアドバイスするよう指示する。 ・付箋を用いて書き込みをさせ、交流後も互いの評価が残るようにする。 <p>○交流をふまえ、必要に応じて随筆の推敲をする。</p> <p>○学習を振り返って、単元で学んだことをワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して気づいたことや学んだこと、今後の学習にどう生かすかなどが書けるように指示をする。 ・意図的指名をし、学んだことを全体で共有する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、今までの学習で読みとった筆者のものの見方や考え方をもとに、筆者と同じ視点をもって随筆を書いているかを確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ワークシート 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、今までの学習を生かして筆者のものの見方や考え方を捉え、同じ視点をもって随筆を書こうとしているかを確認する。 </div>

7 本時の指導（5／6時間）

(1) 本時の目標

現代語訳や語注などを手がかりに「枕草子」を読み、清少納言について表われたものの見方や考え方を理解することができる。 [知識及び技能] (3) イ

(2) 本時の評価規準

B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への支援の手立て
「読むこと」において、「枕草子」の章段から清少納言のものの見方、考え方を見つけ、そこから読み取れる清少納言について自分や周囲と比較しながら考えている。	第2時～4時のワークシートを振り返らせ、どんな部分に筆者の意見が書かれているかに着目させ、同じ立場だったら自分はどう感じるかを考えるように指示する。

(3) 本時の展開

	学習活動	指導と評価の留意点
導入 2分	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの活動を想起し、本時の活動を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で取り扱う古文をそれぞれに音読させる。
	<p>「枕草子」から、清少納言の新たな一面を読み探ろう。</p>	
展開 40分	<ol style="list-style-type: none"> 3 グループごとに選択した「枕草子」の章段を読み、清少納言について読み取れるものの見方や考え方が書かれた部分に線を引く。 4 線を引いたところに自分が考えた清少納言について書き込む。 5 グループ内で自分の着目したところ、清少納言について交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・人に厳しい人・毒舌 ・気遣いのできる人 ・愛情深い優しい人 ・感性豊かな人 ・他の人とは違うセンスの人 など </div> <ol style="list-style-type: none"> 6 全体でグループごとに考えた清少納言について発表する。 7 違う章段から得られた意見で共通する点、自分たちと違う意見について全体場で意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2時～4時までのワークシートを振り返らせ、記入の仕方を確認させる。 ・グループで一つにまとめる必要はなく、根拠となる部分を正しく挙げて考えられていれば、多様な意見となってよいことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価 [知識・技能] ワークシート 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、それぞれの資料から、ものの見方や考え方について内容を正しく捉えながら清少納言について考えているかを確認する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表をもとに、教師が黒板の模造紙に清少納言の一面について書き込んでいく。 ・自分たちの読んだ章段から得た意見とは異なる意見を取り挙げ考えさせることで、人は多くの側面をもつことをおさえ清少納言について他面的にとらえさせる。

終 末 8 分	8 学習を振り返って、自分がとらえる清少納言についてワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を通して清少納言について考えてどうだったか、古典作品を読むことで得られる良さについて書けるように声をかける。 ・意図的指名をして数名に発表させ、学びを全体で共有する。
------------------	--	---

(4) 板書計画

①「枕草子」を読み、筆者の物の見方、考え方が分かる所に線を引く。清少納言はどんな人か考える。〔個人〕

②交流 〔グループ〕

- ・線を引いた所はどこか
- ・そこからどんなことが分かるか
- ・どんな人だと考えることができるか

③グループごとに発表 〔全体〕

④清少納言について自分の考えをまとめる〔個人〕

⑤振り返り

清少納言

随筆を読み、筆者について迫ろう

「枕草子」から清少納言の新たな一面を読み探ろう。

4グループ 第〇段

3グループ 第〇段

2グループ 第〇段

1グループ 第〇段